

新市中央中学校区	校番 67	福山市立綱引小学校
最終更新日	2025年（令和7年）10月1日	

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	--

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 ・「オール新市」を掲げる中で、地域の良さを発信やボランティアの取組など、もっと地域を好きになる取組を進めてほしい。 ・HPなどでの出前授業の取組（キャリア教育の取組）は興味深く、今後も継続して児童生徒にたくさん学んでいただきたい。 ・学校に登校できない子供たちにも目を向け、そこへの取組をもっと発信した方がよい。（知らない人が多い）	児童生徒の現状 ・全国学力・学習状況調査をはじめとした学力調査を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着に重点を置く必要がある。 ・キャリア教育の実践を通じ、校区で育てたい資質・能力を意識しながら様々な活動に取り組むことができおり、4月当初から12月末で、肯定的評価をする児童生徒が増えている。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力 ・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 ・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々に取り組んでいく。
---------	---	--	--	--

III 自校	ミッション 地域から愛され、応援される学校づくりを行う。	学校教育目標 心豊かに 自ら学ぶ子どもの育成	現 状 <児童> ・「学ぶことが楽しい」児童は、81%。R6全国学力・学習状況調査（6年）では、全国比、国語+2.3、算数-4.6だった。主体的・対話的で深い学びに関する質問紙項目は概ね高い数値だったが、経年的に算数科の定着率が低い。 ・単元末テストにおける、得点率 40%未満の児童は 3%に減ったが学力調査における得点率 40%未満の児童が 20%いる。 ・平日放課後における 1 日当たりのゲームをする時間が 3 時間以上の児童が 37.8%だった。 ・コミュニティスクールとしての動きが活発になり、地域から学ぶ機会が増えた。「地域が好き」な児童は 92%だった。 ・友だち同士で「わくわく学習」を見合ったり、オンライン発表会を行ったりしたことで「わくわく学習」に対する肯定感が 82%となった。 <授業> ・学び合いを中心に研究を行い授業のスタイルができてきたが、学び合いによって生まれる学習効果について授業のなかで十分に見取ることができなかった。 ・教職員のニーズに合わせてミニ研究を行い授業に生かしたため、やりがいをもって仕事に取り組む肯定感が上がった。 ・カリキュラムの中に CS での学びを位置づけ取り組んだことで児童は地域に愛着と誇りを持っている。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 1・2年 3・4年 5・6年	チャレンジ&チェンジする力 苦手なことでも最後まであきらめずにチャレンジしている。 失敗を恐れずチャレンジし、失敗してもそれをもとに次どうすればよいか考えている。 リーダー性を身につけ、課題を解決するためにチャレンジし、改善しようとしている。	自己理解力 自分の好きなことやってみたいことをもち、自分のよさを理解している。 自分の好きなことやってみたいことをもち、自分のよさと課題を理解している。 自分のよさや課題を理解し、よさを伸ばし、課題を克服しようとしている。	自己表現力 自分の思いをもち、相手に伝えている。 自分の思いや考えを多様な表現方法で堂々と表現している。 自分の思いや考えを根拠を示しながら工夫して表現している。
				研究 テーマ 内容等	自分の考えをもち、学び合う授業づくり ～教材研究！こども理解！教材研究！こども理解！～ ○教科の本質を意識した教材研究を行う。（算数・理科・体育を中心に） ○学級経営を基盤とした授業を行う。（特別活動を生かして）		
				めざす授業の姿	① 児童とともに学習計画を立て、つける力を意識した授業。 ② あたたかい雰囲気の中で安心して自分を表現できる授業。 ③ 確かな学力をつける授業。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立綱引小学校

年 目	中期 経営 目標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
5	こども が学び に向か う力、 学び続 ける力、 なりたい 自分に向 かう力を 育成する。	★	見 直 し	課題解決に向けて、自分なりの方法で取り組み、粘り強く学ぶこともを育成する。 (「チャレンジ&チェンジする力」)	①教科の面白さを追究して授業づくりを行う。(研究部) ②安心して自己を発揮し目標に向かって生活できる、学級づくりを行う。(生指部) ③「メディアコントロールデイ」(校区)を設け、生活習慣を見直し、時間の使い方を判断する力をつける。(健康安全部)	①「学びが面白い」90%以上(児童)授業づくりポートフォリオを活用して授業改善を行った。100%(教職員)・国語・算数・理科の単元テストにおいて、40%未満の児童5%以下 ②「自分のよさは、まわりの人から認められていると思いませんか。」85%以上(児童) ③「ゲーム(スマホゲーム)3時間以上」20%以下 体力テスト県平均かつ全国平均以上の項目が昨年度(18分の3)以上(今年度)	①教職員間で授業改善に努め、またCSの方と共に児童の学習を支援したり、遊びと学びをつなげる授業の展開を行ったりした。学力が面白い91%。ポートフォリオ100% ②各々の学習状況を把握し、学習の中で躓きそうなポイントを予想し、指導・支援を行った。1学期末テスト40%未満の児童の割合、国語科4.8%、算数科6.7%、理科1.6% ③学校全体で他者のよさを見つける活動「ハッピー大作戦」や縦割りの班遊び(遊まうデー)を定期的に行った。自己が認められていると感じられる77% ④保護者に協力を依頼し毎週木曜日に実施した。にこにこ習慣(メディアコントロール(強引)週間)も実施した。朝会で生活習慣について啓発した。メディアに触れない時間を作るために、放課後こども主催の遊びの会を行った。ゲーム3時間以上9% 新体力テストに向けて測定方法や、指導のポイントを研修し、適切な指導ができるように取り組んだ。18項目中6項目達成	3	3	①あひき塾(放課後の補充学習)の回数を増やし、計算タイムの内容を見直し学力の定着を図る。適応題から逆算した授業づくりを研究実践する。 ②縦割りの班ごとの遊まうデーの取り組みを強化し自己肯定感につなげる。また、学級の中で、プチ幸せ見つけや自分のいいところ見つけなど自己有用感をもてるような取り組みを行う。 ③にこにこ習慣の結果を児童、保護者に周知し、目標が具体的にこてるようにする。体育館を中心に運動量の多い体育の授業を創造し、研修で全職員に広げていく。健康安全部や体育委員会が中心となって、家庭学習や普段の生活の中で簡単に取り始める運動を紹介していく。					
				夢や希望をもち、自分のよさを伸ばそうとすることも育成する。 (自己理解力)	①「好き」や「やりたい」に向かう「わくわく学習」を推奨する。(研究部) ②個別に支援が必要な児童に多様な学びの場や相談できる場を設定する。(生指部)	①「わくわく学習で自分にあった学び方ができた。」80%以上(児童) ②「困りごとや不安がある時に、学校で相談できる。」 「先生がよさを認めてくれる。」90%以上	①わくわく学習発表会やお互いの作品を見合う時間を設定して、肯定評価の場面を増やした。朝会で学習の仕方を確認し、良いのノートの掲示を定期的に行った。自分に合った学び方ができた。90% ②いじめアンケート実施後、全児童とおはなしタイム(個別面談)で話をしたり、毎月、「聞いて聞いての日」を設定したりして、子どもたちの意見を聞いた。学校に相談できる76%。良さを認めてくれる82%	3	2	①お互いのノートや作品を見合う時間を月に一度設定したり、わくわくノート掲示を2週間に一度更新したりして、これまで以上に児童の読解力を評価できるようにする。 ②児童の困り感を汲み取る為に、児童理解・教職員研修を生徒指導部が月に一回行う。また、普段から相談しやすい職員を整える。					
				自分の考えとその理由を明らかにして、工夫して発表することも育成する。 (自己表現力)	①学び合いの目的や方法を明らかにし、豊かに自己表現する授業づくりに取り組む。(研究部) ②地域の人的・物的資源を活用した教育活動を行い、相手を意識した表現活動に取り組む。(生指部)	①「自分の考えとその理由を明らかにして、発表を工夫している。」80%(児童) ②CSとのつながりを意識した授業を設定した。100%(教職員) 「児童が相手に伝わる発表ができた」ととらえる教職員85%	①ペアやグループ、全体での話し合いを効果的に取り入れた授業に取り組んだ。また自分の考えをもてるように、思考できる発問を考えた。87% ②教育課程にCSの学びを位置づけ、各学年地域人材やモブを有効に活用した。全学年：算数サポート 3年：パラ学習 4年：備後研 5年：米作り 6年：会社活動 達成率100% 6年生が新聞の記事について事実と意見を分けて全校に放送したり3、4年生が総合、音楽の学びを表現したり等、相手を意識して表現する場を増やした。達成率100%	4	4	①反応の仕方や話し合いの仕方の話型を提示し、話型を意識した授業を展開する。また話し合いや反応の仕方の具体的なイメージができるように児童に見本を示す。 ②引き続きCSと連携して授業を設定していく。心を揺さぶる豊かな体験活動を通して、表現したいという気持ちを醸成していく。また、CSで学んだことや地域のことを校内放送などで全校に発信する場を用意する。					
5	教職員が 元気で 働き、 活動で る環境 を実現する。		見 直 し	教職員が協働して意欲をもって教育活動を行う。	①教職員のニーズに合わせた研究や少人数での部会を生かした取り組みを行う。(企画委) ②日常的に職員間でコミュニケーションを取り合う。(企画委)	①「教科の面白さを実感している」90%以上(教職員) ②「授業づくりや分掌の仕事などについて協働してくれる仲間がいる」90%以上(教職員)	①教職員のニーズに合わせ、理科、算数、体育のミニ部会を作り、研究テーマに基づいて教科研を行い、互いの授業を見合って研鑽している。達成率100% ②「日々の授業づくりについて職員間でフラットに話をする雰囲気があり、こどもを中心にした学びを展開してくれる教職員の意欲が向上している。設定された三部会以外にも必要に応じて主任、主事がリーダーシップをとって協働する組織をつくっている。達成率91.7%	4	4	①研究実践を積み、12月にミニ部会ごとで研究の成果を発表し、教科の面白さを発信する予定。授業づくりポートフォリオを活用した算数授業の改善から児童の学力向上を図る取り組みを交流する。 ②困っていることを気軽に相談できる人間関係づくりを全職員で意識して進めていく。引き続き、主任、主事のリーダーシップのもと教育活動を行っていく。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。